

## 〔畜産農家の声〕

### ええキジを作りたい

津山市桑下 松岡兆人さん 倫子さん  
(美作県民局 畜産第1班)

#### 〇はじめに

今回は、津山市桑下で放鳥のためのキジ(注)を飼育している松岡さんを紹介します。

(飼育状況)

キジ：♂50羽、♀150羽

ちなみに、肉用牛繁殖雌牛も3頭飼育しています。

です。しかし松岡さんは、御本人の技術により1羽あたり約30個産ませています。この卵を24日間孵卵器で温め、ヒナにかえます。それから120日程度で、野に放します。

#### 〇キジを飼うきっかけ

松岡さんは、高校卒業後に就農しました。

キジについては二代目で、お父さんから引き継ぎました。お父さんは化学の先生で、とても勉強熱心だったそうです。そんなお父さんの血を受け継ぎ、松岡さんも勉強熱心



(左：♂、右：♀)

です。毎年の繁殖状況やふ化状況、放鳥時期・場所など、記録として残しています。それでも「毎年、一年生だ」と謙虚です。

#### 〇『ええキジ』を作りたい

松岡さんは、『ええキジ』を育てて放すため、日々努力しています。『ええキジ』とは、丈夫で、野生にすぐ順応するようなキジのことを言うそうです。

ここで少し、キジの特徴を。繁殖期は4月～6月。この間、♂は特にきれいな色になります。胸は深緑色、目の周りは真っ赤になります。ちなみに♀はうすい茶色です。

野生の場合、繁殖期の総産卵数は、1羽当たり10個程度だそう



(放鳥風景)

キジの飼育を始めたのは就農後すぐの昭和40年からです。松岡さんとお父さんが旧落合町などで行われているキジの放鳥の新聞記事を偶然見つけて、興味を持ったのがきっかけでした。二人は、キジの飼養者の所へ勉強に行き、キジのヒナ♂3羽と♀6羽をわけてもらい、育て始めました。そして次の年には初めて47羽を放鳥しました。

そのうち松岡さんはもっともっと飼いたいと思い、現在の羽数まで増羽しました。



(話に熱がこもる松岡さん)

## ○悲喜こもごも

キジがイタチやテンなどの野生動物に襲われたり、積雪により破損した小屋を夜中に修理するなど、苦勞する時があるそうです。

その反面、放鳥したキジが自由を求めて飛んでいく姿を見たときや、山でキジの元気な姿を見たり、鳴き声を聞いたときは、とても嬉しくなるそうです。

苦勞する話でも嬉しい話でも、キジの話をするとき、松岡さんは楽しそうで、表情もきらきらしています。

今後も、「丈夫なええキジを放していきたい」と松岡さんは話してくれました。

## ○畜産班から

普段何気なく見かけるだけのキジについて、興味深い話を聞くことができました。実は松岡さん、キジを始める前に様々な作物に挑戦したそうですが、ここの土地に適さず、たどり着いたのがキジだったそうです。

キジに対する愛情と、その向こうに松岡さんの地元愛を感じました。

(注) 岡山県が行っている「キジ・ヤマドリ放鳥事業」。狩猟鳥の減少に対処し、キジ・ヤマドリの増殖を図ることを目的に、昭和39年から実施されている。